

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

学位申請者	田島 諒子 【ライフサイエンス専攻 平成26年度生】	要 旨
論文題目	日本人における食事と非アルコール性脂肪性肝疾患 (NAFLD) の関連の横断的検討	<p>非アルコール性脂肪性肝疾患 (Non-alcoholic fatty liver disease : NAFLD) は肝臓のメタボリック症候群とも呼ばれ、その有病率は近年増加の一途をたどる。肝炎を経て肝癌のリスクを高めることなどが知られており、その予防・治療法の確立は重要な課題である。そこで本研究では日本人男女を対象に大規模な疫学調査を行い、食事とNAFLDの有病率の関連性について検討を行った。【研究1】では、増悪要因として考えられる炭水化物エネルギー比率・米飯・パン・麺類の摂取量、及びソフトドリンクの摂取量とNAFLDの関連性について検討を行った。また【研究2】では、NAFLDに予防的に働く可能性が考えられる果物・野菜摂取量とNAFLDの関連性を検討した。都内1施設で人間ドックを受診した男女6000余名に食事調査を行い、このうちの中年層（40-69歳）のデータを用いて解析を行った。この結果、女性では、炭水化物摂取量、もしくはその主要な供給源である米飯摂取量が多い者で、NAFLDの有病率が高いことが示された。また男女ともに、果物・野菜の摂取量はNAFLDとは有意な関連にないことが示された。本研究の結果より中年日本人女性では、炭水化物、特に米飯の摂取量がNAFLD予防において重要なターゲットである可能性が示された。</p> <p>本研究の結果は、食事の内容がNAFLDのリスクに寄与する可能性を明らかとし、日本のNAFLDの治療ガイドラインの充実に資する貴重な研究であると考えられる。</p>
審査委員	(主査) 准教授 飯田 薫子	
	教授 赤松 利恵	
	教授 鈴木 恵美子	
	准教授 須藤 紀子	
	講師 市 育代	